



▲古川高等学校から6人、大崎中央高等学校から6人、岩出山高等学校から5人、古川学園高等学校から5人、古川黎明高等学校から5人の高校生たちが参加

少子高齢化や人口減少が進む今、地域に根を張り、次代の担い手となる若者の不足は、どの分野においても大きな課題となっています。市では、平成27年度から、市内の高校生を対象にした「おおさき高校生タウンミーティング」を開催しています。大崎市民として大崎市へ関心を持つてもらい、高校生たちの自由でやわらかい発想を生かした、率直なまちづくりへの提言と積極的な参画が狙いです。前回の提言を参考にし、現在、市内の企業に勤める若手社員の皆さんによる、人材育成と交流の場創出を目指す「オオサキ人の手プロジェクト」という新しい事業の準備が進められています。2月12日、今回で2回目となる「おおさき高校生タウンミーティング」を開催しました。



▲真剣に話し合う高校生たち



▲話し合いの成果を発表

大崎市が進める地方創生④ おおさき高校生タウンミーティング

市内の5つの高校から27人が参加し、「高校生が考える少子化問題」に住みよい暮らしを実現するために私たちがやってみたいこと」をテーマに、5つのグループに分かれてワークショップを行いました。自分たちが住む大崎市を住みよくするために、何が必要で、何をすればよいか、自分たちなら、どんなまちづくりやイベントを行うか、初めて顔を合わせた者同士、静かに始まったワークショップも、時間が経つにつれ笑い声や拍手が起きはじめ、うち解けた雰囲気の中で話し合いが進みました。話し合いの結果は、模造紙にまとめられ、グループごとに発表をしてもうもらいました。その中には、今日の話し合いだけではもったいないので、引き続き話し合いが持てるよう、高校生によるプロジェクトを立ち上げたい。市内の高校生が市外の高校生を全力でおもてなしするツール・ド・大崎(市内全域を巡る自転車競技大会)を開催したいなどの提言もあり、決して大人まかせや他人事ではなく、大崎市民である自分たちのこととして真剣に考えてくれました。今回、高校生たちから提言された内容は、市の施策の貴重な参考材料としてしっかりと受け止め、地方創生を進める今後のまちづくりに役立てていきます。

10 years story 年物語

～おおさき人の軌跡～

10年を振り返り 新たな10年へ歩みだす



大崎市民生委員・児童委員協議会会長 高橋 栄徳 さん

活動の概要

市民の身近な相談相手として、厚生労働大臣から市内の319人(平成28年12月1日現在)が民選委員・児童委員に委嘱されている。報酬を伴わない非常勤の地方公務員であり、また、地域の一員として、社会福祉に関する知識を深め、情報交換や街頭街頭啓発などの活動を展開している。

地域住民の暮らしを支える「隣人愛」

～ 民生委員・児童委員 ～

大崎市の民生委員・児童委員は、各地域に配置され、身近な相談相手として、市民の立場に立った相談に応じ、行政や社会福祉協議会などの関係機関と連携しながら、必要な支援を行っています。

共に地域に暮らす者同士、困ったときは気軽に相談してほしいと思いますので、市民との交流機会を大切に、少しずつ信頼関係を築いてきました。

近年は、一人暮らしや核家族の増加など、市民の暮らしは複雑さを増している。



街頭啓発活動の様子

まず、社会福祉制度やサービスは、わたしが活動を始めた24年前に比べれば、充実してきましたが、その分、悩み相談の幅も広がってきています。

生活の形は多様で、これと決まった解決策などはないものですが、相談を受ける際には、相手の意思を最大限尊重することで、相談者の手助けができればと思います。

民生委員・児童委員の制度は、今年で100周年を迎えます。大正6年の創設から、人々の暮らしに合わせて、制度の名称は変わりましたが、「隣人愛」という基本理念は、先人からしっかりと受け継がれてきました。

今後は、身近な相談相手として、より親しみを持ってもらえるよう、委員自身が明るく笑顔で活動できる体制づくりが必要だと思っています。関係機関との連携も深めながら、地域を支えていきたいです。

新図書館で たくさんの本と出会ってほしい

～ 大崎市図書館 おはなし会ボランティア ～

わたしが、読み聞かせを始めた昭和50年ごろは、現在のように、子どもたちの情操を育むためという考え方は、まだ広まっていませんでした。

毎晩のように、子守唄代わりに本を読んであげていた自分の子どもたちが、大きくなったこともあって、単純な思いだけで、当時の古川市図書館に来ていた小学生たちに、紙芝居や本を読んであげるようになりました。

放課後になると子どもたちが、図書館に



大崎市図書館で行われたおはなし会の様子

たくさん来ていた時代で、紙芝居を始めると、多くの子どもたちがわたしの周りに集まってくれて、当時は、「紙芝居のおばちゃん」と、子どもたちから呼ばれていました。

今は、ゲームやインターネットなど、楽しいことがたくさんある時代になりましたが、本は、直接的な言葉や画像ではなく、ストーリーを通して、いろいろなことを想像させてくれます。絵本から童話へ、短編から長編へと成長していくなかで、やさしい気持ちやくじけぬ強い気持ち、豊かな心を育ててくれます。

7月の新図書館オープンまで、もう少しありますが、今から夢いっぱいにして、大きな期待を寄せています。新図書館でも、ボランティアの皆さんの皆さんと一緒に、読み聞かせを通じて子どもたちの夢を支援し、たくさんの本と出会うきっかけづくりを行っていきたくと思っています。



大崎市図書館 おはなし会ボランティア 門脇 京子 さん

活動の概要

読み聞かせには、乳幼児期の情操や親子のコミュニケーションツールとして、物語の世界を楽しむなどが期待されている。大崎市図書館では、職員やボランティアによるおはなし会が定期的に行われてきた。新図書館でのおはなし会開催に向けて、ボランティア養成講座も行われている。